

先日、初めてスマホの通信速度制限を受けました。最初は月の半ば過ぎに「データ量残り1GBのお知らせ」のメールが飛んできたのですが、なぜだろうと首を傾げました。それまで私は、割り当てられた1カ月ごとのデータ通信量を超えるような使い方はほとんどしたことがなく、大抵は余ったデータ量を繰り越している状況だったからです。

ただ、アプリ更新時の必要データが100MB以上のもが多かったのも、それが原因かとも思い、しばらくはWi-Fi接続であってもダウンロードを控えるようにしていましたが、数日後には「データ量到達のお知らせ」メールが。あわてて原因を調べたのですが、その結果、写真アプリが通信量の9割以上を占めていることに気がきました。

私は最近になって写真はデジカメからスマホで撮影するようになったのですが、撮影した写真を自動的にクラウドへアップロードする設定となっていたため、大量に撮影した写真データがそのまま通信量を圧迫してしまっていたのです。

最初のメール受信時に、もっとちゃんと原因を調べておくべきだったと悔やみましたが、後の祭りです。月末までの残りの日々を、128kbpsという厳しい速度制限がかかった状態で乗り切ることになってしまいました。(S.S)

こ数年、異常気象のために激甚化した災害が相次いで発生するようになりました。たとえば台風にしても勢力がまったく衰えずに日本列島の真上を通過するとか、一度太平洋側へ通り過ぎたにもかかわらず、再び勢力を増して戻ってくるなど、気象学上説明がつかないような動きをしており、想定外というコメントが飛び交っています。

一方、ネット上をつらつら検索してみると、海面や台風の目に対してマイクロ波をレーザー照射することで、台風を生み出したり、その進路を操ることができる技術が特許申請されたという記事を見かけます。うさん臭い人たちの記事ならまだしも、大学教授や科学者が書かれている記事もあり信ぴょう性も高く、そこまで技術が進んでいるのなら平和利用で災害は減ってもよさそうなものなのに、どうして逆に増えているのか疑問でした。

そうした技術は、もともと軍事利用のために研究が進められてきているようで、その場合、好ましからざる使われ方をしてもおかしくないのかも知れません。まさか、今年日本を席卷した台風の数々が、そうした技術で生み出されたものとは思いたくないですが、あの異常な迷走ぶりを見ていると、誰かが操作しているのではないかと疑ってしまいそうになります。(Y.H)

こんな時が危ない!

- 工事繁忙期よりも、終期、特に撤収作業時
- 非常に危険と思われる作業よりも、それほど危険と思われない作業時
- 同一作業が長く続くよりも、1日~2日とか半日、あるいはもっと短時間で終わる作業時
- わかりきった常識的な作業手順を守らない時
- 作業時に積極的な人が、指示以外の作業をした時
- 安全設備を取りつける段取りに取りかかる前
- 教育を十分うけているはずの職長や工事監督がルール無視の行動をした時
- 立入り禁止箇所、危険箇所を承知していて、そこへ行った時

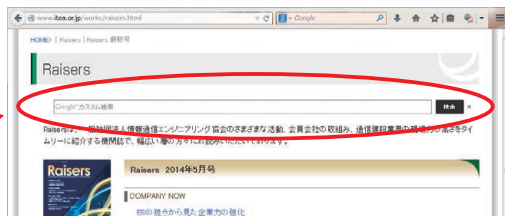
「Raisers」はホームページでも閲覧可能です!

「Raisers」の最新号から過去記事までホームページで閲覧することができます。

<http://www.itea.or.jp/works/raisers.html>

また、ホームページ内の検索窓から

読みたい記事の関連キーワードにより全文検索も可能です。是非ご利用ください。



Raisers第 67 巻 第6号 (通巻第739号) 2019年 11月 5日印刷 2019年 11月 10日発行

本体価格600円(税別) ※会員、特別会員の本誌の購読料は、会費の中にこれを含む

■編集 一般社団法人情報通信エンジニアリング協会 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町3-3

Tel. (03) 3464-3211(代) Fax. (03) 3464-3216

■発行所 一般社団法人電気通信協会 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-1 如水会ビルディング6階

Tel. (03) 3288-0608 Fax (03) 3288-0615

(本誌掲載記事の無断転載を禁じます。)

